

8:7 さて、エリシャがダマスコに行ったとき、アラムの王ベン・ハダドは病気であった。すると彼に「神の人がここまで来ている」という知らせがあった。

8:8 王はハザエルに言った。「贈り物を持って行って、神の人を迎え、私のこの病気が治るかどうか、あの人を通して【主】のみこころを求めてくれ。」

8:9 そこで、ハザエルはダマスコのあらゆる良い物をらくだ四十頭に載せて、贈り物として携え、神の人を迎えに行った。彼は神の人の前に来て立ち、こう言った。「あなたの子、アラムの王ベン・ハダドが、『この病気は治るであろうか』と言って、あなたのところへ私を遣わしました。」

8:10 エリシャは彼に言った。「行って、『あなたは必ず治る』と彼に告げなさい。しかし、【主】は私に、彼が必ず死ぬことも示された。」

8:11 神の人は、彼が恥じるほどじっと彼を見つめ、そして泣き出したので、

8:12 ハザエルは尋ねた。「ご主人様はなぜ泣くのですか。」エリシャは答えた。「私は、あなたがイスラエル人に害を加えようとしていることを知っているからだ。あなたはイスラエル人の要塞に火を放ち、その若い男たちを剣で切り殺し、幼子たちを八つ裂きにし、妊婦たちを切り裂くだろう。」

8:13 ハザエルは言った。「しもべは犬にすぎないのに、どうして、そんな大それたことができるでしょう。」しかし、エリシャは言った。「【主】は私に、あなたがアラムの王になると示されたのだ。」

8:14 彼はエリシャのもとを去り、自分の主君のところに帰った。王が彼に、「エリシャはあなたに何と言ったか」と尋ねると、彼は「あなたは必ず治ると言いました」と答えた。

8:15 しかし、翌日、ハザエルは厚い布を取って水に浸し、王の顔にかぶせたので、王は死んだ。こうして、ハザエルは彼に代わって王となった。

ベン・ハダドは3人いるので、この王はかつてイスラエルを攻めた人物とは違う可能性があります。彼はイスラエルの神とその預言者の力を、ある程度は信じていたようです。呪術者の一人くらいに思っていたかも知れません。

ベン・ハダドが力によって王であり続けたように、ハザエルも力づくで王となりました。神に従わない人は力づくで目的を成し遂げようとし、しかしまた同じように、次は自分が力に屈するのです。神なきこの世の営みは現代も共通しています。

イスラエルは神への反逆によって他国から攻められますが、アラムがその役割を果たしました。しかしそれは正しいことを行ってではなく、まさに暴虐でしたから、王たちも暴虐によって滅んでいったのです。その背後に主の御手がありました。私たちは悪い者たちを主にお任せすることができるのです。

主に従わない者たちは勝手なことを重ねながら、結局主の計画に用いられていきます。私たちは主のみこころを行いながら、喜びと祝福によって用いられてゆくものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

